

第 1 1 章 プラハの夏

—とにかくごくごく大まかな私の意見を言うと、

これは前兆だよ、この国になにかの異変の勃発する—

孤独感という言葉が、1968年6月10日、月曜日の午後遅くに私がプラハに到着した時の気持ちを一番良く表しています。ロサンゼルスアンバサダーホテルで火曜日の真夜中に起きた悲惨な出来事からまだ一週間も経っていませんでした、あの憂鬱な年のアメリカの明るい希望が彼の勝利の瞬間に撃ち殺されたあの時から。

私はブリティッシュエアウエイのロンドンへの夜行便でも、ヒースロー空港でプラハへの短距離フライト乗り継ぎを待つ間でも、眠ることができませんでした。土曜の夜にジョージタウンで、アル・ローウェンスタインとバッタリ会ってから、殆ど何も食べていませんでした。

私の秘書のシャロン・ミラーが先にプラハに着いていて、空港で迎えてくれました、本当のところ、第二次世界大戦の年代もののかまぼこ型のプレハブを急いでつなげたような空港でした。

「ジュリアンがあなたに夕食に加わって欲しいそうよ。」彼女が言いました。それは「レマゲン鉄橋」のデヴィッド・ウォルパーのラインプロデューサーのジュリアン・ラッドウィグのことでした。「彼は他の何人かのキャストと一緒に

にパリで待っているわ。それがプラハで唯一のちゃんとしたレストランだよ。」

「行かなければならないのかい？」私は呻きました。私は疲れはて頬や目元が落ち込み、神経はすり減っていました—とても新しい仲間と初めて対面する状態ではありませんでした。しかしシャロンは「彼らは皆、あなたがどんなに大変だったかを知っているわ。行きなさい、ロバート—貴方にとって良いかもしれないわよ。」と言いました。

「それじゃあ、ジュリアンに電話して喜んで一緒にしますと言っておいてよ。」

驚いたことにその日の夜は私に取って結局上手くいったのです。ジュリアンと私にジョージ・シーガル、ブラッドフォード・ディルマン、そしてベン・ギャザラが加わりました。私はジョージが主に彼がトークショーにゲスト出演し、ウィットに富み、魅力的でエリザベス朝のバンジョーのような学期を演奏してことから覚えていました。彼はさらに、エリザベス・テイラーとリチャード・バートンが出演したマイク・ニコルスの映画「バージニア・ウルフなんて怖くない」にも出演し、批評家の絶賛をあげました。

ブラッドは「アンクル」の最後の2時間番組「プリンス オブ ダークネス アフェア」に出演した最後のゲストスターでした。ニューイングランドのハイカラな私立高校、ホッチキスを卒業し、イエール大学へ進学、そこで、ウィリアム・F・バックレーの極秘の「頭蓋骨と骨クラブ」（どちらのブッシュ大統領もメンバーの）への参加招待を断ったと言われています。私は彼がああ忌まわしいレオポルドとロープの殺人事件を扱った「コンパルジョン」と云う恐ろしい映画で、私の友人ディーン・ストックウェルの相手役を血が凍るような素晴らしい演技に驚嘆していました。

そして、私の親愛なる友人であるジェイソン・ロバーズがいつも愛情を込めて「酒飲みベニー」と呼んでいたベン・ギャザラ。 1969年、ベンはジョン・カサベテスの「ハズバンズ」の撮影・編集集中にマホランドドライブの私の家のゲストになります。私たちは1956年の6月に、彼がブロードウェイの「夜を逃れて」にシェリー・ウィンターと出演している時に初めて会いました。後に（1961年に）、シェリーとドミニク・ダンマリブの夏の私の隣人で友人の二人になるのです。私たちは沢山の夕日と一緒に見ました—彼らの誰もが厳密に言えばシラフではなかったのですが。シェリー・ウィンターズは、ああ、残念なことに亡くなり、一方ニックは禁酒し、富裕層で起きる犯罪事件の記録者として大成功をおさめました。

私たちの最初の出会いの時は、ベンはお酒を飲むと引っ込み思案とは云えないエレヌ・ストリッチと付き合っていて、私はニューヨーク8番街の俳優のたまり場の、ジム・ドニーのバーのボックス席の二人をすぐに見つけました。ベンを見つけるやいなや、私は友人のポール・ランバートとウィル・セイジが私に言ったことを思い出しました。彼らはニューヨークの「エンド アズ アマン」公演でのベン・ジョコー・デパリを見ており、彼らの友人だと言って自己紹介するように強く言っていたのです。そして「君がジャッコーを演じたことも必ず言うこと。」とポールが念押ししました。

これは結果として緊張をほぐすものにはなりませんでした。私が言われたように自己紹介した時、ベン是完全なる沈黙で応えました。

私の言ったことが聞こえなかったのかと思い、もう一度試みました「ギャザラさん、私はロバート・ヴォーンです。私たちには二人の共通の友人がいます、ポール・ランバートとウィル・セイジです。私はちょうど「エンド アズ アマン」のジョコー・デパリの役を演じたところです、ポールとウィルはあなた

がその舞台で素晴らしい演技をされたと私に話していたんです。」。ギャザラは私が見えず、聞こえないかのように宙を見つめていました。

まあ、私はそういうことだと察しました。しかし、私がおその場を離れようとしたときに、エレーンが彼女の大きな舞台用の声でギャザラを咎めました：「いい加減にしなさいよ、この若い子に挨拶ぐらいしたらどうなの！」（ベンは私よりわずか2才上なだけでした。）

ギャザラはなにやら気乗りのしない挨拶を眩き、私はこれ幸いとお別れしました。私たちが次に会ったのは「プレイハウス 90」で共演した時で、ジョン・フランケンハイマー監督の「トラブルメーカー」というテレビドラマに出演しました。ギャザラはニューヨークのあの夜のときのように、実質的にほとんど話しませんでした。

しかし、プラハのあの最初の夜に夕食を共にした頃までには、私達は友人になっており、少なくとも「レマゲン鉄橋」撮影中もその状態は続いていました。私の母はショービジネスに於ける人間関係について言っていた言葉があります。：「彼は彼女をととても愛した、しかし季節は終わった。」 私たち4人はージョージ、ベン、ブラッドそして私ー1968年の八月から11月の間にととても近くなりました。私たち4人はウィーン、ハンブルグ、ローマ、そしてニューヨークでこれ以上ないくらい沢山夕食を共にしました：大いに笑い、飲み、泣き、そして飲み、話をし、また飲みましたーそしてまた一杯か二杯呑んでその夜を仕上げたのです。（本当のところは、ジョージ・シーガルは例外でした：彼はほとんど飲みませんでした「私の苦しみ支障をきたすから」と言っています。もしその時誰かが「君たち4人は投票日が来て、全て終わったら、もうお互いに会うことは二度とないだろうね。」と言ったとしたら、私達はそ

んな予言を嘲笑っていたことでしょう。しかし、そういうものであることは本当であったのです。

あの夏、プラハは、世界の全ての大きな都市の中で、おそらく間違いなく居るべき場所でした。変化が空気中に満ちていました。活発な動きはその年のはじめから、46才の共産主義国家を率いる最年少の党書記であるアレクサンデル・ドゥブチェク、によって推し進められていました。彼は初めから、前任者で抑圧的で、ただ人々を逮捕するしか術のないリーダーシップで、時として「人格なき個人崇拜」を先導したと表現されているアントニーニ・ノヴォトニー、とは全く異なるスタイルを示していました。1967年までに前任者の彼は国を経済破綻の瀬戸際まで追い込んでいたのです。

そして1968年1月、チェコ中央委員総会での重大な投票は、保守派とドゥブチェクを支持する改革派の間で真っ二つに割れました。ノヴォトニーはヘンドリックという、ためらっている支持者の方を向き、今すぐに自分に投票しなければ、娘を恐喝すると脅しました。ヘンドリックは非常に良い良識の脈を当てました：彼はノボトニーに対抗し、ドゥブチェクに票を投じました、そして均衡が破られたのです。プラハの春が始まり、その国の指導権はドゥブチェクと72才の第二次世界大戦の英雄でスターリンの粛清の犠牲者であったルドヴィーク・スヴォボダに委ねられました。ちょうどふさわしいことに、「スヴォボダ」はチェコ語で「自由」を意味します。

政権の移行はチェコの人々の間に敏感な反応がありました。4月14日ヴァツラフ・ハヴェル—俳優で作家で、4年半投獄され、後の1988-89年のビロード革命を率い、チェコ共和国の初代大統領となる—ガリタラルニ・ノヴィニー、当時としてはチェコのもっとも影響のある週刊紙に画期的な記事を発表しました。「野党の主題について」というタイトルは、彼の母国の政治的

な未来について芽生えつつある討論と、新しい民主的な野党を初めて求める公の声に対するハヴェルの寄稿でありました。共産党体制における前代未聞の検閲の緩和により、はじめてそのような刊行物が可能となったのです。

新ドゥブチェク体制も反応しました。 その同じ月に、ドゥブチェクは彼の行動綱領を発表しました。 それは、言論と教会の自由化、集会の権利、スターリン粛清犠牲者の名誉回復、無記名多党選挙を唱ったものでした。経済は西欧とのより多くの交易を含めて再構築されつつあり、他国への移住や外国へ旅行する権利も保証されようとしていました。 政府の重要な役職も非共産党員にも開かれ、政治的拘留も排除されようとしていました。共産党体制下で批判された作家たちは釈放されました。 初めて、警官達は身分証明のため番号付されたバッジをつけ、労働者たちはストライキの権利が与えられました。ドゥブチェクの政策はクレムリンを震撼させてしまったに違いありません。

私たちが撮影を始めた6月の第二週までは、プラハにいたことが喜びに満ちていました。「インタナショナル ヘルルド トリビューン」、「タイムズ」そして「ニューズウィーク」のような西洋の新聞や雑誌がヴァーツラフ広場のキオスクに登場し、西洋の音楽がいたるところで演奏されていました。テレビでは、ニュース解説者、哲学者、学者等が長い間その国を支配していた強硬路線の人達の反感を買うことなく如何に民主的改革を合併し進めるか討論していました。レストランは興奮して話たり、笑ったり、新しく手に入れた一時は禁止されていた書類やスピーチを交換したりする若者達で溢れました。彼らの微笑みと今は何でも出来ると言う元気に満ちたムードが「人間の顔をした社会主義」の例証となり、世界中のニュースの見出しとなりました。

それは何百万もの幸せなチェコ人たちのための全国規模の新しい政党のように見えました。 しかしソ連が支配するワルシャワ条約機構軍による演習が

チェコスロバキア国境で行われているという不穏な話もありました。誰も本当は、クレムリンが自分の勢力範囲にある一国がそれを逃れようとするのをいたずらに傍観するであろうとは、あえて信じようとはしていませんでした。

心配で興奮が薄れてきたその頃、私たちの映画でさえも政治的な陰謀に翻弄されました。今だに党の言い分をオウム返しにしているあるチェコの新聞が、私たちが実際は、チェコの民主化反乱を支援するためにいるCIA諜報員であると書きました。文化庁に対するソ連のアドバイザー、同志サドフスキが、私たちが「第二次世界大戦」映画を撮影するという口実を使って、銃、戦車など他の戦闘設備を密輸し、チェコスロバキアのベトナム式侵略の準備をしていると宣言しました。もう一つの全国紙は「アメリカ軍戦車と軍隊がプラハに侵略」と激しく叫び立てる見出しを載せました。

噂が飛び、私たちの4半世紀も古い型の戦車、車、そして武器が押収されることとなりました。私たちがチェコスロバキアへ軍事用品を輸入した本当の理由を調査している間は、撮影を続けることは出来ないと告げられました。しかし理由がなんであれ、これらの脅しは決して影響を与えませんでした。もちろんソ連は私たちだけを脅していたわけではありません、彼らは国全体に、特にその新しいリーダーに対して拳を振り上げていたのです。

一方、私たちは撮影を押し進めました。私はレマゲン鉄橋の橋のロケに初めて登場しました。私が古い車、それが私の映画での車なのですが、それから降りるとそれまで興奮して笑いながら撮影を見ていた何人かの中年の地元の人達が突然黙り込みました。すぐに私は理由が分かりました。私はドイツ国防軍の少佐の軍服を着ていたのです。チェコ人達は恐怖におののきました：彼らにとって、私はナチで大戦中に彼らの故郷がドイツ軍に占領されたことを思い出させたのです。

私はすぐに秘書のシャロンに、苦悩している見学者達を私のメイクアップ用トレーラーに案内するように言いました。私は私たちの優秀な通訳、健康的で丸ぼちゃの、ペプシ・ワトソンの助けを借りました。徹頭徹尾チェコ人（苗字の割には）の彼女は、変なアクセントのない完璧な英語を話しました。私は初めて彼女に会った時から彼女に魅力を感じていました、しかし彼女がとても興奮しやすい、おそらく過敏に感情的な人であることにも気づいていました。（私は興奮しやすい女性は好きですが、興奮しすぎるのは困りますーリング・ランドナーが警告したと言われるように、「自分が抱えている問題よりさらに悪い問題を抱えている人とは決して寝てはいけない」）だから私は仕事上の関係のみに留めることにしました。そして、このペプシの助いで、私はチェコの人達に私たちの映画について説明をしました：第二次世界大戦の終盤の日々についてのセットであり、同盟軍が大攻撃を開始するためライン川を渡る橋を死にもぐるいで探し、退却するドイツ軍が全ての橋を破壊し、ただ一つの橋が残されたことを発見したーその橋がレマゲン鉄橋、その物語であると。

その話を聞き、私のドイツ軍衣装を歴史的な状況に照らしてみることで、地元の人達が抱いていた不安は取り除かれたように見えました。日が、週がたつにつれ、私たちはチェコの人々ととても仲良くなりました。多くの人々を名前でも知るようになり、彼らの自由と正義への願い、特に彼らの若い子供たちへの願いを学びました。

その夏の政治ドラマが展開するにつれ、懐疑的な世界の報道陣たちがヴァーツラフ広場のアルクロンホテルに配置され、赤いハンマーが降り下ろされるのを待っていました。

ベニー、ジョージ、ブラッド、そして私はほとんど毎晩同じホテルで夕食を共に過ごしました、時にベンの当時の奥さん、ジャニス・ルールを加えながら。

それは緑の大理石の柱、鉢植えのシュロの木、そしてジャズオーケストラがヨーロッパの晩年の無声映画そして初期のトーキー映画の優雅な光を醸し出す薄れゆく美術館のようでした。毎晩、演奏家たちは第二次世界大戦中の歌、ロマンティックなあるいは勇ましい音楽を演奏して私たちをもてなし、私たちは屋上の暗いダンスフロアで交代でジャニスと踊りました。ジャニスは素晴らしい才能を持った踊り手で、私でさえも普通よりちょっとマシな踊り手に見せてくれました。その夏の或とき、私たちはブラッドを「俺たちのタワーキラー」とふざけて呼び始めました—その理由のひとつは彼の「コンパルジョン」の演技によるもので、さらにひとつには彼が微笑むと、つまり、少々怖く見えたからです。ブラッドがジャニーと踊る順番になると、ベンはテーブルをドンドンと叩き、アップマンシガーを口にしっかりとくわえて叫ぶのです、「タワーキラーがJ.Rにくっついているのを見ろよ！」

私たちは大抵アルクロンのバーで寝酒と記者たちがその日送った話の報告でその夜を終えていました。チャールズ・コリンウッド、CBS ニュスの輝かしい時代のももとの「マローの部下たち」の一人、が彼の奥さんでハリウッド女優であるルイーズ・アウブリットンを伴い、記者たちの夜の集まりを仕切っていました。いつも几帳面に背広を着て、コリンウッドはレミーマルタンを何杯か飲んだあとでも最も能弁なジャーナリストの一人でした、そして私は率直に彼の存在に今まで会った俳優の誰よりもスターのような憧れをいだきました。

その夏を通して、有名人たちがプラハに食事をしたり、その小さな国で起きている歴史的な出来事を見に飛んで来ました。1966年に、MGMでの私の昼食会のゲストであったエドムンド・G・“パット”ブラウンカルフォルニア州知事がちょっとした視察とおしゃべりをしに飛んできました。（サクラメント

州議会室の彼の地位はこのあとロナルド・リーガン、そして彼自身の息子であるジェリー・ブラウン—中立、右翼、左翼と目まぐるしく代わりカルフォルニアでしか通用しない政治センスにより時に月光知事と称された—によって引き継がれました) シャーリー・テンプル、のちのガーナ大使—彼女の「オン・ザ・グッド・シップ・ロリポップ」の日々はもう遠いかなたのことでした—が、ある暖かな午後に、私たちの映画のほとんどのスタッフと俳優が滞在していた、インターナショナルホテルに昼食をとりにやってきました。

別の時には、私はホテルの部屋で、ホテルに少ししかないTVのひとつ—白黒で秘密にすることでマネージャーに融通してもらった—で夕方のニュースを解説しようとしていました。私のドアで大きなノックの音がしました。「誰です？」私はきっとブラッド・ディルマン、私のTVについて知っている数少ない人の一人、であろうと思い叫びました。

「ウィンストン・チャーチル」と声が応えました。

ちょっと困惑しましたが、「ウィニー、どうぞ入って」と叫びました。それはもちろん、あの偉大な戦時中のイギリスのリーダーではなく、彼の孫のウィンストン・チャーチル三世で、BBC ニュースの仕事でプラハを訪れていたのです。私たちはおしゃべりをし、ブランデーを飲み、(あの夜、酒宴部門ではきっとお祖父さんに彼を誇りにおもわせたことでしょう。)それは愉快な一時を過ごしました。彼にはその後一度もあっていません。

アメリカの独立記念日を祝って、映画の出演者が7月4日に、アメリカ大使館に招待されました、チャールズ・コリンウッドと奥さんそして彼のいく人かの仲間も一緒でした。私はその機会にドゥブチェク政権の中で実際何か起きているのか、そしてワルシャワ条約機構軍の軍事演習の趣旨について聞き出そう

と努力しました、しかし私が USC の博士号取得が秒読みに入っていることを大使夫人に説明した後でも彼女は何も教えてくれませんでした。その日の後でコリンウッドと飲みながら、彼も調査が妨害されていることを知りました。

すこしづつ、短期間に何か劇的なことは起こりそうもないと判断して、外国記者達がプラハから次第に散っていきました。しかし、噂や色んな話はチェコの首都を巡り続けていました。八月中旬に、ある大々的に回った記事によると、プラハからドゥブチェクを載せたチェコの列車が国境の街チェルナ・ナド・チソウに、ソ連首相のレオニド・ブレジネフその人を載せたキエフからの列車が到着するのと同じくして到着したとのことでした。二つの列車は頭と頭を付き合わせて3日間停車し、二人のリーダーの間での超極秘交渉が行われたようでした。ある記者が鉄道労働者から明け方3時に一人の男の人が線路伝いに歩いているのを見かけた、と聞き出しました。それはドゥブチェクであると分かりました。「私は眠れないんだよ。」と彼はその労働者に語りました、「ロシアに支払わされるであろう代償の高さを考えていてね。」と。しかしそのシーンの裏側で何が起きようとしていたにしても、何一つ公には明らかにされませんでした。

そのちょうど2、3日後、私たちはドゥブチェクが重要な発表をすると聞きました。撮影を休止し、出演者とスタッフがラジオを聴こうと集まり、ペプシ・ワトソンが通訳をしました。「私は我々の主権が脅かされているのかどうか尋ねられています。」、ドゥブチェクが話始めました。「私はそれはない、と心から答えます。あなたがたにした約束を私たちは守りました。私たちは、共産党とチェコスロバキアの国全体がこの1968年1月に歩み始めた道から引き返すことなく歩みつづけます。私たちの国の人々にとって他の可能性はありません。」

そしてもう一つ別の噂が回り始めました—街のロシア地図が役に立たないようにするため、プラハの全ての街の標識が取り除かれるというものでした。これは本当でした。

8月20日の夜、私たち仲間4人—ベニー、ジョージ、ブラッドと私—は夜のブランディーを一時頃に終わらせました。ブラッドを私は、イギリスのブライトンパビリオンの巨大な錬鉄製のラブチャイルドと、エッフェル塔がプラハの中心に立っているようなエキシビジョンパレスの隣の、新パークホテルにもどりました。私はバーで最後のコニャックを飲み、夏の空が白むころに部屋にもどりました—3時から3時半には明るくなり始めていました—すでに空にはかすかに色がついていました。

ブラッドの部屋と私の部屋の間のドアを激しく叩く音に起こされた時はまだウトウトもしていませんでした。私がドアの掛けがねをはずすと、ブラッドが叫んでいました、「窓の外を見ろよ—下劣な奴らがついにやったよ」。エキシビジョンパレスの前の広場にはソ連の赤い星の模様をつけた戦車が円陣を組んでいました。戦車の上立っていたのは、とても緊張して混乱した顔の若者達の数々—ソ連軍兵士で、後で分かったのですが、彼らはモンゴルのような場所から召集され、プラハについたら解放者として喜んで迎えられようと言われて来たのでした。（35年後イラクでディック・チェイニーが発見したように、そんな予測は殆ど起こり得ないのです。）

ブラッドと私は指示を待つしかありませんでした。午前8時ごろ、ブラッド、私そして秘書のシャロンがパスポートと貴重品を急いで持って、下で運転手が待っているからその車に行くようにと連絡がありました。（私はその時がパークホテルを見る最後だとは気づいていませんでした。）私たちが国際ホテルに向かっていると、運転手が車のラジオのニュースを通訳してくれ

ました。 スボヴォダ大統領は戦車がフラチャニーパレスの中庭に侵入した時はパジャマ姿であったと伝えられ、彼のソ連の新たな傀儡政権に対して力を貸すようにと云う要求に対する反応は、一言：「出て行け！」であった。その後すぐに、あるチェコ人の抵抗者が殺害されたと聞きました。

その後、私たちはドゥブチェクが初め外国軍が国境を超えて侵入したと聞いたとき、わずか二週間前に交渉をしていた人達が、今この国を攻撃して来るなどとは信じることができなかつたと聞きました。ソ連の武装した車が彼の窓の下の広場に乗り付け、チェコ市民をマシンガンで彼の目前で殺害したときにやっと形勢に気がついたのです。

私たちの通訳、ペプシはさらに詳しい情報を提供してくれました：KGB がドゥブチェクの書齋に押し入り、壁から電話を引きちぎった。彼の個人的なボディガード—ペプシの子どもの頃の友人—はドゥブチェクを守ろうとし責任者に射殺された。ドゥブチェクと他のチェコのリーダー達はもがくと、自分たちの首を締まるようにロープを首に回し、体を後ろに曲げ、手足と固く縛られていた。

私たちはあとからもう一つの信頼できる情報源から、彼らが武装した車の床に寝かされて、国境を超えてはるかウクライナまで連れていかれたと聞きました。

その時起きていることに対する恐怖にも拘わらず、最初はとてつもない歴史的な出来事の一部であることに興奮しているように見えました。それはまるで私たちが映画のシーンを演じているかのようでした、私たちの受け取った台本から何故か抜け落ちたシーンのひとつのように。しかし、私たちはキャスト、スタッフそして監督全員が国際チェスゲームのコマであることに気づき始めました、そして始めのスリルは私たちの幸福—そしておそらく命をも脅か

す恐れへと変わりました。私たちは当分の間インタナショナルホテルに留まるように言われました。政府は私たちにどう対応してくれるのか？私たちは待つしかありませんでした。

1950年代に建てられ、インタナショナルホテルはスターリン時代の芸術的な建物でした。小さなエンパイアステイトと仇名され、それはとても大きな建物で中心に塔があり、その先端には赤い星が飾られていました。今や街にいる殆どのアメリカ人が、私たち映画撮影隊を含み、ここに集められ、最上階のオーケストラは私たちが踊るために第二次世界大戦時の局を演奏するのに専心しました。

最初は私たちの監禁状態を緩和するための食べ物やワインが沢山ありました。私たちは翌日には脱出できると聞かされ続けました、そして一日が過ぎ、また一日と過ぎました。一週間が経ち、ワインが無くなり始めました、そして食料も。プロデューサーのディビッド・ウォルパーが、夜間外出禁止令が出て、ロシア人はその命令に背いた者は誰でもその場で殺害するよう指示されたと伝えました。私たちのユーモアはぞっとするものになりました：半分本気で、愛する人に最後の手紙を書くと言う冗談を言いはじめたのです。

この頃になって、私は博士学位論文のための資料を全てパークホテルに置いてきてしまったことに気がつきました。私はこの情報を蓄えるのに数年をついやしていました、ブラックリストに挙げられた俳優、作家達、彼らの多くは私の仲間であり友人でした、そして彼らの記憶と影響のテープへの録音です。これら全ての記録と録音が今私の手の届かないところにある—とても苛立たしい状況でした。

ペプシはしばらく私たちの前から消えていました。そして私たちの通訳は突然姿を表し、大使館前で地下新聞を配布していたと告げました。明らかに彼女は若い二人の青年がプラハを車で自由新聞を渡して回ったことでマシンガンで射殺されたことを知らなかったのです。しかし、彼女が自分の信念のためにいかなる機会も喜んで捕まえるという事実には驚嘆しました—彼女は本当の意味での革命家でした。

私たちの監禁が続き、噂も飛び交いました。人々はトゥブチェックと他のチェコ指導者たちはモスクワで処刑されたのではないかと言っていました。しかし、チェコの抵抗者達はサボタージュや秘密のラジオ、TV放送などを使って、反撃していました。私たちは毎日正午に、サイレンや車のクラクションでのゼネストの合図を聞きました。

そして侵略から一週間後、スヴォボダとドゥブチェックがモスクワから戻りました。ドゥブチェックがTVとラジオので国民に話しかけたとき、顔色は青く、やつれ、頭には包帯がしてあり、明らかに拷問され砕かれた様子でした。もつれた声で訳の分からない音と言葉の間違いをしながら、かれは人々に冷静になり、さらなる暴力行為を起こさないように訴えました。彼はチェコスロバキアの状況が正常化すればすぐにロシア軍は撤退すると国民に保証しようと試みました。スピーチが続くにつれ、彼はマイクの前でほとんど崩れ落ちそうに見えました。最後にモスクワで起きたことについて話し始めたとき、彼は完全に崩れ落ち、すすり泣きました。

ドゥブチェックが公衆の面前で泣き崩れたことは私たちのチェコの友人にとって破壊的な瞬間でした。

ペプシはドゥブチェックのスピーチが終わったとき私たちと一緒にいました。突然彼女は走り去り、明らかに或る使命を胸に秘めていたようでした。一瞬、私は彼女の後を追おうと思いました、しかし彼女がどこへ行こうとしているのか分からなかったのです、私は残り、次に来る衝撃に備えました。

私はそれほど長く待つ必要はありませんでした。彼女がホテルのテラスの屋根に駆け上がり、ロシアの旗と旗用ポールを支柱から取って破り、ヤリのように眼下の戦車に向けて投げつけた、という話が直ぐに伝わってきました。彼女の話を再び聞くことはありませんでした。

直ぐに、すべての戦車がその銃をホテルの正面に向け、私たちアメリカ人はホテルの中の正面階段に銃の方に向けて座るように命令されました。全く意味のないことと当時思えましたが、私たちは命令に従いました—今でも意味があるとは思いません。

間もなくして、私たちをオーストリアの国境へ連れていくバスと車が向かっているとの連絡が入りました。ベンとジャニスは彼ら自身の車で案内される予定でした。インタナショナルホテルでベンの個人的なウェイトレスをし、彼らの娘のリズが訪れたときに子守をした若い女性が彼らと一緒に来ました。(ベンの回顧録、「インザモーメント」で彼女をアポリナと呼んでいるので、私もそう呼ぶことにします。) プラハのほとんど誰ものように、アポリナはロシア軍がやってくるやいなや国を出ることを望んでいて、ギャザラは助ける準備をしていました。ブラッド、シャロン、ジョージ・シーガル、そして私は私の車で私の運転手が運転していく予定でした。他の人達全ては其々バス、車の席を割り当てられました。

実際の出発は慌ただしく混沌としたものでした。私たちはパスポートをつかみ、着の身着のまま、小さな旅行カバンに僅かな物を突っ込みました。私の論文用資料の全てはパークホテルに残ったままでした。しかし、私たちはインターナショナルホテルでの軟禁状態から脱出しているところで、その事実が他の心配事の影を薄くしました。

それはとても長く、神経が苛立つ旅でした、特に私たちは銃を持った、若い、こわばった顔をしたロシア兵士による検問で何ども止められたからです。しかし手配はほとんど完璧でした。ガソリンはアメリカ大使館から供給され、デイビッド・ウォルバーは私たちに国境をこえさせるに必要な正式な書類をなんとか入手していました—私たちの全員、一人を除いて。

私たちがグミュントのオーストリア国境の内側の検問所に到着したのは夕方でした。

警備兵は私たちの車の前で一人一人細かく検査をし、通させていました。。。そしてベンとジャニスと私の車の順番がやって来ました。

一番年長らしき国境警備兵が2台ともパスポートを持って外に出るように告げました。直ぐに警備兵はアポリナを見つけました—私たちの中で正式な書類を持っていない唯一の人を。彼らは彼女を小さな警備小屋へ引っ張って行きました。私たちは怯えたしかし脅かすように、大きな銃を汗だくの手に震えながら持っている若い兵士たちによって、釘付けにされました。辺り完全に暗く、静かで、恐ろしいほどでした、わずかな月の光とサーチライト（ハリウッドのプレミアで見られるようなもの）が国境に不規則な影を落としていました。

アポリナを収容され、残りの私たちは国境を超えカフェのようなところ、冷戦中の白黒スパイ映画にみられるような国境の通過駅のようなところ、へ連れられて行きました。

私たちはそこで彼女を待つことにしました、そしてその間は今まで経験したなかでかなり気味の悪いメディアへの登場の一つに参加することにしました—プラハでの経験について記者たちのインタビューに答えている間、私たちは食べ物とビール攻めにあったのです。

三時間が過ぎました。今やもう真夜中を過ぎていました、記者たちは去り、未だにアポリナの気配はありませんでした。私たちは熱く、だんだん激しく、どうすべきかを議論しました：アポリナをそこへ残すか、それともどうにかしてチェコスロバキアへ国境を超えて戻り、彼女を助けるか？果たしてそれが可能か？それはただ私たちをまたトラブルに巻き込むだけではないか？そしてアポリナがまだ手の届くところにいると確信できるのか？今ごろ彼女はプラハに戻されているかも知れない。

突然、私たちが議論しているとき、検問所の暗がりから人影が飛び出してきました、彼女の手を振って叫びながらです。それはアポリナでした。この若くてとても怯えた少女がどうにかして捕獲者たちの気をそらし、逃げてきたのです。直ぐに私たちは喜びと興奮で涙を流しました。

最終的に、ベンはなんとか彼女をアメリカまで連れて戻ることができました。

安堵し疲れはて、私たちは国境のヒッチコック映画「サイコ」のアンソニー・パーキンスが経営するような荒れ果てた、静かなホテルを割り当てられました。私が夜明け前漸く断続的な眠りに入ったとき、電話が鳴りました。私がかうなるような声で電話に出ると、典型的な興奮したアメリカのディスクジョッキーが

「音楽愛好家の皆！すごい特典だぜ！俺たちは今、「マン・フロム・アングル」のスーパーエージェントナポレオン・ソロとして皆も知ってる、ロバート・ヴォーンと話すところなんだ。彼はちょうどロシア人達の裏をかいて、共産党の抑圧から逃れて、チェコとオーストリアの国境を超え、グミュントという小さな街にたどり着いたとこなんだ。ロバート、自由になった感想を教えて！」

私は考えられる限りの口汚い罵り言葉を叫び、おんぼろの受話器を受台に叩きつけ、すぐに眠りにつきました。電話の向こうの無神経な馬鹿が誰であったのか分かりません。

私たちは世界的な出来事に邪魔されたため、映画「レマゲン鉄橋」の撮影を終える事ができませんでした。そしてその秋に撮影を再開しました、初めはドイツのハンブルグで、そしてローマ、そこにはウォルパーが巨大な経費をかけてレマゲン鉄橋の半分の大きさのものを、街を少し離れたローマ法王の夏の住いであるガンドルフォ城の近くに建設していました。

ハンブルグでは、私たち4人はグランド・アトランティック・ホテルに宿泊させられました。そこで私たちは、本来ならプラハのバランドフスタジオで行われるはずであった室内のシーンを、撮影して過ごしました。

最初の一週間に、出演者の中の何人かの若いアメリカ人俳優たちが、私たちのホテルの近くのシェリーズという名前のバーについて話していました。彼らは、そこには、美しく着飾り、完璧な英語を話し、それぞれがアメリカ映画のスターに似ている（少なくともちょっと見た目で）華麗な若いドイツの女の子が居ると主張していました。彼女たちはそれぞれ自分で「リンダ・ダーネル」、「マリリン・モンロー」、「エリザベス・テイラー」などと名乗ってさえもいたのです、万が一印象が一致しないときのために。

我々の若い仲間たちによると、スターの一人と「デート」する年だんは37ドル50セントでした。しかし、そこにはアトランティック・ホテルと暗黙の取引があったようで、まず初めに、ホテルの豪華なレストランで彼女と一緒にワインと食事をしなくてはなりませんでした。

好奇心が刺激され、私たち4人はシェリーズを調査しに行きました、すると確かに、全ての話が正しかったことが判明しました。 私はほとんどすぐに3人の「マリリン・モンロー」を見つけ、一人を他の二人を傷つけることなく選ばなくてはなりませんでした。それで、彼女はどうかだったかって？ まあ、ジョー・ディマジオが語ろうとしないのなら、何故私が？

私たちがローマに出発する少し前のある夜、ブラッド。ジョージ、そして私は、大きなゴシックのドアがベンの部屋に続く、ジョージの部屋に居ました、そこで、私たちは隣の部屋での大きな笑い声を聞いたのです。 好奇心に幸いなことに、アトランティック・ホテルの続き間のゴシックドアの全てにはとても大きな鍵と同じく大きな鍵穴がありました。 ジョージが素早く除いて、私たちに告げました、「ベニーは今夜は“アリーン・ダール”と一緒にだ。」（アリーンは赤毛のアメリカ映画女優で、1950年代の「逃げた花嫁」そして「スライトリースカーレット」で覚えられているかもしれません。 彼女は、ラテンの恋人で昼ドラのアイドルのフェルナンド・ロペスと結婚し、離婚しました。彼は、ビリー・クリスタルのパロディ「君はとても素敵だ！」で生き延びました。）

私たちはどうにかして3人一緒に鍵穴から覗けるように調整をしました。確かにそこにはベニーが、大きな白いバスローブに被われ、大きなロメオとジュリエットの葉巻を吸っていました。彼は大きなゴシック調に彫られたベッドに寄りかかり、「ジャッキーがアリと結婚へ」という見出しのインターナショナル

ル・ヘラルド・トリビューンを読んでいました。“模造品の”アリーン・ダールはベッドの足元に座っていて、彼女もローブに身を包み、とても大きなブランドグラスをきれいにマニキュアした白い手に持っていました。

私たちが見ていると、ベンは新聞を下ろして微笑み、ドイツ人娼婦に「沢山飲めよ、俺のエンジェル、おれのスイートナチ」と言いました。ベンは男でも女でも誰彼となく「エンジェル」と呼ぶ癖がありました、しかし、「俺のスイートナチ」はあんまりでした。ジョージ、ブラッド、そして私は笑い転げました。そしてそれが急速に熟成して行く私たち4人の俳優が、デビッド・ウォルパーの資金で過ごしたヨーロッパでの素晴らしい一時の、私の最後の記憶です。

数ヶ月後、私たちが皆アメリカに戻った後、私の論文用資料がパークホテルから回収され、クリスマスイブの日に、私のところへ国務省を通して返却されました。そんなに長くかかった理由は分かりませんでした。

プラハとチェコスロバキアについては、物事は良くなった前より悪くなっていました。アレクサダー・ドゥブチェクは血液中に放射性ストロンチウムが発見され、モスクワで毒を盛られたことが推測されました。彼はすぐに職を追われ、党からも除名され、18年間をスロバキア森林組合の木場の事務員として費やしました。幸せなことに、ドゥブチェクは1989年の「ビロード革命」を見るまで生き延び、今日のチェコ共和国を作った民主的自由のシンボルとして復活しました。

ペプシ・ワトソンについては、彼女に何があったのか、見つけ出すことはありませんでした—短い命のプラハの春の、私の個人的なヒロイン。